

## 中間評価報告書

畜産酪農技術センター試験研究評価委員会

令和元年9月2日(月)

研究種別	最重点化課題	
研究課題名	特産飼料の給与等によるプレミアム豚肉の開発	
研究期間	平成30年度 ~ 令和2年度	
	評価項目	平均点
1	研究計画の進捗度	3.8
[コメント]		
<p>山梨県特有の地域飼料資源を活用し、新たなブランド豚肉を創出しようとする挑戦的な課題。昨年度の研究結果から、ドングリは飼料中に20%まで添加できること、この飼料を給与すると飼養成績が向上すること、酸味が少ないなどの特徴を持った豚肉が生産できることを明らかにした。一方で、摘果モモ10%添加では、明確な差が得られなかったとのこと。着実に結果を得ていることから、本課題は計画通りに順調に進捗していると判断した。</p> <p>今年度も同様の試験を繰り返し、結果の再現性を確認することになっており、さらに次年度は放牧農家での実証試験を予定している。しかしながら、現在、豚コレラの感染拡大が問題となっている。こうした観点から、今年度の研究計画を含めて研究課題の内容は柔軟に変更することをお勧めしたい。</p> <p>また、地域飼料資源を活用した特産飼料によるプレミアム豚肉生産が可能になった場合に、どの様に実用化を図っていくか等の検討も必要。</p>		

## 中間評価報告書

畜産酪農技術センター試験研究評価委員会

令和元年9月2日(月)

研究種別	重点化課題	
研究課題名	牛体外受精卵の高度生産技術の確立	
研究期間	平成30年度 ~ 令和2年度	
	評価項目	平均点
1	研究計画の進捗度	4.4
[コメント]		
<p>山梨県のブランドである甲州牛の生産基盤を支える、不可欠な技術開発と位置付けられる。特に、血統登録可能な体外受精卵生産技術の確立は、将来的な牛の改良と血統の保全には絶対必要であり、現場の農家においても本技術の確立に強い期待が持たれている。</p> <p>体外受精卵技術の確立においては、卵子用の培地の比較、培養条件の検討を通じて、単純組成培地の有効性、媒性時間の長短による発生率を明らかにした。</p> <p>急速ガラス化保存法の効率化においては、処理時間の延長により生存率や孵化率が低下することが明らかになった。これについては、今後の更なる検討を期待したい。</p> <p>以上のことから、本課題は順調に進捗していると判断できる。今年度および次年度の研究を通じて、我が国の牛体外受精卵研究をリードして行って頂きたい。</p>		